

## 第6回緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成25年8月8日(木) 午後6時30分～午後8時40分
- 開催場所 中央公民館 2階 講座室1
- 出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、宮崎委員、沼崎委員、船津委員、河合委員、菊地委員、千葉委員、前田委員、宮村委員、山口委員(順不同)
- 傍聴人 なし
- 議題 1 防火活用の可能性と地域防災モデルについて  
2 その他
- 配付資料 1 小平市地域防災計画の抜粋(資料1)  
2 用水路と雑木林の防火活用の可能性と地域防災モデルについて(資料2)

### 会議要旨

#### 委員長

事務局より小平市地域防災計画の説明をしてもらい、それを参考に検討していく。

#### 事務局

——資料1のとおり説明した——

#### 委員長

これについて何かあるか。

#### 委員

小平市の地図を買ったが、その中には緑地、農地などの記載がなかったが、私有地部分があるために市としては載せてないのか。

#### 事務局

小平市には様々な地図があり、緑地などが掲載されていない地図もある。防災用の地図、都市計画地図、公園や緑地を記載した地図などである。これら全部を一枚に載せてしまうとわかりづらくなる状況ではある。後で事務資料として提供する。

#### 委員

震災時の緑地協定を結んでいる所は少ないようであるため、協定を結びたくないという申し出を受けるやり方にしてはどうか。

#### 事務局

生産緑地は協定を結んでいる方と結んでいない方がいる。昨年JA東京むさしと災害協定を結んだ。大規模な災害が発生した時に、市民が生命や身体を火災等から守るため、同意がある農家の生産緑地については、一時的かつ緊急的に避難する場所として使用することができるものである。ちなみに、生産緑地で災害協定に同意を頂いている農家は212世帯である。また、農家数の全体は約360戸である。

#### 委員長

何か促進する活動をしたのか。

## 事務局

おそらく、世代交代もあり新しく災害協定を締結してもらおうよう J A を通してアプローチをしたものである。

## 委員長

資料 1 の 30 ページに、用水路には多摩川からの自然水が流れているので、震災時の生活用水として使用するとあるが、具体的な計画はあるのか。

## 事務局

個別的な計画は無いが、生活用水なので直接そのまま飲むわけであれば活用はできるかと考える。

## 委員長

小平市の西端の小平監視所から下水道処理水が流れている玉川上水、野火止用水と、多摩川の自然水が流れている用水とを分けて考えている。それは中々良くできていて、我々がやろうとしている事の後押しをして頂いている、むしろこれをどう活用するかを検討して提案していくのも悪くない。

## 委員

防災井戸が 80 か所位ある。市役所から東の方が多く、西の方は少ない。

## 事務局

人が住んでいる間隔によってかもしれない。昔はどの家でも井戸を持っていたと思う。埋めた所も生きている所もある。浅く掘った所は枯れたりしながら現在に至っている。

## 委員長

水道管の敷設が 100 パーセントになった時に、恐らく井戸は様々な影響を受けたと思う。

## 事務局

市では年一回の水質検査もやっている。水質に合格した井戸を指定している。

## 委員長

飲料水として飲めるということか。

## 事務局

飲むには、煮沸する必要がある。また、停電時のポンプのくみ上げ用の自家発電装置を配布してある。災害が起こった時に地下水脈に変な物質が混じってしまう恐れはあるが、飲み水ではなくても皿洗い用等の生活用水として使える。

## 委員長

用水と雑木林を利用して防災をやろうということであるなら、井戸まで広げてしまうとどんどん広がってしまう。井戸で全てをまかなうわけではないから、地域防災計画の中で捉えていることで良いと思う。

## 事務局

地図の準備ができたので配布する。都市計画概要の地図、防災マップ、市立公園・保存樹林・用水路等を掲載した地図である。

## 副委員長

地域防災計画に基づく事業計画や関係資料はあるのか。

## 事務局

地域防災計画については資料編というのがあるが、具体的な活用、手法については記載が無かったと思う。その場の状況で適宜やり方を判断する。あえて足かせをかけないという判断である。

例えば、緑化推進委員会から提言をいただき、こういったやり方もあるとアイデアを出していただければ防災安全課で今後生かせるのではないかと。

## 委員長

地域防災計画は多岐にわたっている。一つ一つの具体的な行動計画を決めるとなると何冊にも分冊になり読みきれないだろう。緑化推進委員会としては、用水と雑木林を災害が発生した時に、具体的にどのように活用できるかという部分が必要である。自然資源をうまく防災にマッチングさせるために具体的な手法を出していくことが我々の課題である。

資料2の用水路と雑木林の防火活用の可能性と地域防災モデルについて説明する。

項目1「小平市の地域防災計画との関係性について」であるが、基本的に地域防災計画に組み込める内容は入れるべきと考えるが、むしろ地域防災計画を補完する位置づけになるだろう。先ほど副委員長の具体的な事業計画があるかという話があったが、プラスアルファの市民自主計画といったものである。市民が自分の手で防災活動をしようと発意した時、自分の手で実施できる施設や準備を用意する計画である。

何を根拠にするかということと小平市の特徴的な地域資源、自然資源である水（用水）と緑（雑木林）が防災に役立つ事柄を発見、着目し、それを生かした防災具体化計画として提案することが緑化推進委員会の立場であろうと思っている。

次に項目2「用水路と雑木林の現状と防災的活用の可能性の（1）用水路について」であるが、まず①延焼遮断帯について説明する。

例えば国分寺から火災が北上してきた時、玉川上水でその火災を遮断してくれる。用水路は単独では狭いので延焼遮断帯の役目は難しいが、玉川上水や野火止用水はリニア状（細長く続いている所）に樹林帯や道路と一体となって一定の延焼遮断帯の役割を果たす可能性がある。

次に②避難路についてであるが、多くの用水路は水路と人家が隣接しているため、家の倒壊を考えると避難路に使うのは難しい。しかし玉川上水などの緑地帯にある緑道や用水路は可能である。また小平の場合は村の成り立ちとして、青梅街道から玉川上水まで短冊状に土地を持っている。土地の売却や開発が無ければ、畑も避難路とすることで青梅街道から玉川上水まで避難移動ができることになる。

次に③火災の消火活動についてであるが、用水路を消火活動に利用するには一定量の水量を常に備蓄する施設が必要である。具体的に水を貯めておく釜場などの整備をすれば可能性がある。地域防災計画で野火止用水4ヶ所、新堀用水3ヶ所、小川用水1ヶ所、玉川上水1路線が消防水利として指定されている。この他に消火栓があるが、水道の消火栓は<sup>きくつ</sup>座屈して流れてこない可能性がある。

次に④延焼の防火活動についてであるが、内容は①と同じである。

最後に⑤生活用水についてであるが、市内の水道管の破損による断水は当然考えておかないといけない。給水車の対応はあると思うが、小平市には水道部はあるか。

**【座屈】**

長い棒や柱などが縦方向に圧縮荷重を受けたときに、ある限度を超えると横方向に曲がる現象。たわむこと。

**事務局**

今はない。災害対策本部が組まれたら、創価学園、白梅高校のそばに浄水所があり、そこから給水する。

**委員長**

東京都のものであるが小平市が使えるのか。

**事務局**

使用できる。また、水道局も動くことになる。基本的には浄水場から配分される。

**委員長**

それは小平市がやるのか。

**事務局**

市の下水道課の職員が浄水所に取りに行く。

**委員長**

市が使用できる浄水所は、1か所だけか。

**事務局**

その1か所だけである。

**委員長**

その井戸が使えるなら小平市は有意義な位置にいる。しかし、恐らく東京都が使うことになるのだろう。

**事務局**

基本的に武蔵野一体については、東村山浄水場から各市に水を供給すると東京都水道局は言っている。市内にある浄水所は補完的なものである。

**委員長**

水道局は管が座屈したり壊れて断水してしまうことは考えてない。二重三重に防御して考えていくことは重要だ。

**委員長**

公的な給水車対応を補完するものとして多摩川由来の用水資源が生活用水として活用できるのではないかということである。しかし、たぬき掘りの区間などは崩落の可能性はある。耐震対応をやっておかないといけないだろう。元の水が止まればしかたがないが、たぬき掘りが崩落して水が使えなくなったら問題である。事前の耐震整備対応を施す必要がある。歴史的な意味はあるが、防災の面では崩落の危険があると考えられる。こういうことが補完するという具体的なことであると思う。

次に項目2「用水路と雑木林の現状と防災的活用の可能性の(2)雑木林の①延焼遮断帯について」だが、都市計画図を見ると低層住宅区域が多い。戸建の分譲となる

と木質系建築物が多いこととなる。今後住宅や人口は増えていくか。

## 事務局

人口推計に基づくと平成27年度をピークに下がり、以降少しずつゆるやかに減少していくと見込まれていく。

## 委員長

誰も住んでいない家は家屋として存続していけば家は燃え種となる。誰も住んでいない家は小平市も結構多い方だと思う。社会的に移動も激しいし高齢化の問題もある。人口数より世帯数がどうなるかというのがというのが問題である。人口は減っても、世帯数が増えれば家が増える。そういう時に雑木林等は延焼遮断帯の役目を果たすのではないかと思う。緑地を延焼遮断帯として計画的に配置するのは難しい。今ある小平グリーンロードを活用した延焼遮断帯としての整備は地域防災計画に任せておけばいいと思う。

### 【燃え種】

火を燃やしついたり、燃やすための草木などの材料。燃料。

次に②避難路についてだが、阪神淡路大震災で樹木の耐震性は証明された。木に家が引っ掛かって倒れるのを防いでる写真を見たことはないか。あれだけの地震の揺れに対してもあまり倒れなかった。倒壊に伴う圧死などは避けられると思う。

玉川上水等は雑木林があるが、避難場所としては難しい。しかし、小平グリーンロードは避難路を補完するものとしての可能性を秘めている。小金井公園、玉川上水、野火止用水にも近いので、今あるものをネットワークとして利用できるものとする。

次に④生活物資の供給（薪など）についてだが、阪神淡路大震災では、電気の復旧は早かったが、ガスの復旧は時間がかかった。座屈して壊れてしまうと中々難しいと思う。そういう点ではエネルギーとしての雑木林の薪炭の活用はあると思う。薪炭製作を平常時の雑木林管理の中に組み込むことで可能であると思う。

次に項目3「防災機能の可能性を集大成した地域防災モデルについて」だが、たかの台にある保存樹林の水車導水路、新堀用水堰、周辺の雑木林を含めて「防災水車公園」（仮称）を造成して、最盛期には小平市に40基あった水車の代表として水車小屋を復元し、小平の小麦粉文化を伝承する。水車はふるさと村にもあるが、実際に新堀用水を利用した水車が重要だ。用水の利用伝承、堰・差蓋・導水路などをもう一度確認して、雑木林と用水路に防災機能を持たせた現実的な公園整備のイメージを緑化推進委員会として提案していくのである。平常時に役立ち震災時も役に立つということが必要である。

具体的には「防災水車公園」（仮称）では、小平市の特徴である雑木林と用水が生活用水利用・エネルギー供給源（水車動力・薪炭）利用が可能なることを施設で示す。そして、現代社会の中で平常時は文化や緑と親しみ、震災時には防災というカテゴリーにおいて大きな役割を果たすことをビジュアルに見せる。そのことにより雑木林や用水の現代的意義が市民に広く流布することを図る。

残り2回しかないので、次は市長に見せる提言書を討議し、次はそれを修正したも

の確認するという作業になる。

#### 委員

用水路には1日 1,000 トンしか流れていないから、堰ができるようなものをあらかじめ整備しておく必要がある。消防ポンプで給水するのに今ある状態だと少し掘るか堰をつくらないと駄目である。

#### 委員長

生活用水や防火用水であっても新堀用水を利用する時には差蓋さぶたが必要だと思う。差蓋さぶたを何か所かやって、その箇所に水車ポンプが入るようにして水位を保ち、そこから水を組み出せばよい。

#### 【差蓋さぶた】

水車の回転をコントロールするための仕切り板。水流を堰き止めた後、仕切り板（堰板）を上げ、その下から水を噴出させる構造物のこと。

#### 委員

玉川上水は今は再生水が流れているが、震災時は、出口の弁が付いていて原水をそのまま都心へ送れるようになるそうである。本来の玉川上水の水を流せるそうである。

#### 事務局

東村山浄水場の水は玉川上水から原水をもらって水を流しているが、野火止用水に埋設された東村山浄水場に繋がる導水管は耐震工事中のため原水が流れていない。工事中の期間は、玉川上水の原水は小平監視所から再生水と一緒に流れている。

#### 委員

その弁というのは非常時のためのものか。

#### 委員

小平監視所の設置工事の時からあったようである。通常時、原水は野火止用水の導水管に流れているが、弁を開ければ玉川上水に流せるそうだ。

#### 事務局

非常時では無いが、現在の東大和市駅の導水管の工事の際にその弁を使って玉川上水に落としている。

#### 委員長

工事が終わるまでは流せないからか。

#### 副委員長

最終は新宿御苑の方まで流れていくのか。御苑から虎ノ門の方に落としていくのか。

#### 事務局

そうであろうと思われる。

#### 委員

たぬき掘りは地震があれば崩れるかもしれない、大沼町の天井川では東に流れ途中から西に流れている。昔は萱かやが生えていてしっかりと護岸ができていた。今は無いから、市で防水シートを貼ることになった。護岸をしていない用水そのものの対応をどうするか。

#### 委員長

確かに防水機能を高めるということは重要であろう。今まで市が努力して50キロの70パーセントくらい通水があるわけだから。そういう努力はずっとしていかななくてはいけない。現在何キロ流れているのか。

#### 事務局

50キロのうち通水は約35キロである。

#### 委員

地域防災計画では用水路の総延長55キロとあるが何故減ったのか。

#### 事務局

用水路が減ったというよりは、利活用の望めない所を売却したり用途変更をしたりして減ったということである。

#### 委員長

防水機能を高めるという意味では、なるべく用水路が露出した方がよい。防災の面からも暗渠ではなく露出した方が活用できるという面がある。それが緑化推進委員会の一つの目標でもある。

#### 委員

今回の緑化推進委員会の提言の骨子になるのが防災と緑である。緑は水と緑と公園課が担当であるが、防災を緑化の中に含めていくことになれば、行政組織の中でどこが関係するのか、関連部署といったものをわかるようにした方がよい。水と緑と公園課だけの話しではなく、市の行政サービス、例えば消防署や教育委員会なども含むだろう。もう一つは、水道の問題も小平を超えた行政サービスとして東京都との仕組み知っておく必要がある。提言内容を作るにあたり市民の方が理解しにくい部分でもある。クラッター図のようなものが必要だ。

#### 【クラッター図】

乱雑、混乱、散乱したものを表す英語。Clutter。広告の混雑度を示したりすることから、クラッター図は複雑な要素を羅列した図という意味。

#### 委員長

横断的にやっていかななくてはならない。市は法律に基づいてやっているが我々は横断できる。防災の相関図みたいなものを事務局に作ってもらって、そのこの部分について用水や緑で補完できる提案を考えていく。まずはその相関図みたいなものを作って頂ければ、皆さんで考えられると思う。

#### 事務局

一つのアイデアにこういう部署が関わってくるというものでよいか。

#### 委員長

例えば、震災発生から一週間の市民の生活が相関図の真中であって、次に命を守るためにどうするかがあり、それに関わる部署はいくつあるのかといった地域防災計画の系統図みたいなものではないかと思う。

そういうものがあって、例えば条件設定は、大震災があった時に一週間位補給の生活があって、安全安心とかをどういう所がやるか。先ほどの話しの中にあつた、水については給水部隊があつて、飲料水はどうする、生活用水は誰がする、トイレは誰が

どうするという感じで作ってもらえればよい。

#### 事務局

災害対策本部は色んな部署に分かれていて、役割が割り振られる。お時間いただかないと難しい。市民の生活の中でこういう部署がこういう形で関係してくるという感じか。

市が公助というのはどんどん小さくなっていて、自助が7割、共助が2割、公助が1割とよく言われている。自助共助の部分で皆さん助かりましようとなってきた。市に関わる部分は非常に少なくなってきた。実は、災害が起きたらその地域の自治会で色んなルールを作ってやっていくというのが防災のルールの新しいやりかたである。まずは家族単位の自助、お隣同士での共助、その9割が機能しないと震災がしのげない。

#### 委員長

組織論だとつまらない。住民たちが自分でやらなくてはならないのなら、選択肢は多い方がよい。誰がやるということではなくて、何があって、通常誰が管理しているというものでもよい。防災時はどうするかということであれば、そういうものを用水や雑木林を使って増やしていければよい。地域防災計画について補完しようという論理である。市内在住の市職員は40パーセント位であるし、職員も被災し全員来られるわけではない。

#### 委員

公園の中に釜戸ベンチ等の設備はあるか。

#### 事務局

防災用に、釜戸になるベンチや、マンホールを開けると非常用便そうになるもの等を設置し始めている。既存の公園に新規でつけていくというのは難しいが、大きな宅地開発や土地区画整理事業の際に整備していただけるようお願いしている。

#### 委員

管理は、水と緑と公園課か。

#### 事務局

平常時は、水と緑と公園課であるが、災害時には地域の皆さんでお願いしますというような仕掛けをこれから作っていくことも必要であると考えている。

#### 委員

キャンプ場のそばに防災の設備があるようだが。

#### 事務局

きつねっばら公園には釜戸スツールも入れてある。東屋は防災東屋で、屋根にシャッターが入っている。そのシャッターを降ろして雨風をよけることができる。

#### 【スツール】

背もたれや肘掛けのない形式の1人用の腰掛をいう。

#### 委員長

水について言えば、飲料水、生活用水等の選択肢はたくさんあった方がよい。その人の状況によってチョイスできるような仕組みの方がよい。

## 委員

資料2にあるように、小平グリーンロードが避難路としての可能性を秘めているとある。今、手を加えずともそこに存在するものが防災に役立つというPRが必要ではないか。もう一つ、「防災水車公園」というものが凄くよいと思う。大きな震災が続き、市民の関心も防災に向いている。平常時には水車という小平の歴史に価値のあるものに市民に触れてもらい、震災時にも使用可能な施設があるという公園は、防災公園という響きだけでも市民に伝わりやすく、また市民目線としてはとても入りやすい。

## 委員長

防災公園とすれば国の補助率も違うようだ。震災時の水害はほとんど無いだろう。地震の後に発生する火災はどうしようもないから、防災公園にして市民に喚起するというには良い。

## 委員

雑木林という概念が、小平グリーンロードに含めるという視点であることを市民にアピールする必要がある。雑木林や用水ということであると西に偏っている感がある。どうしても市全体的なバランスの取れる概念として小平グリーンロードが重要である。

## 委員長

本来なら屋敷林が連続している青梅街道であれば、北と南側の風致地区が最大の避難路になるかもしれない。都市開発で多くの方が住んでいるので、その方達の安全をどうするか。

## 副委員長

屋敷林までは雑木林というのはどうか。

## 委員長

屋敷林まで入れると個人のものであるから生産緑地より手ごわい。

## 副委員長

グリーンロードの樹種も最近は落葉はなくなっている。常緑樹が非常に増えてきている。玉川上水の法面<sup>のりめん</sup>も非常に弱い。防火などには将来的にも雑木林の樹種も選定していかななくてはならない。防災ということになっていくと考えないといけない。

### 【法面<sup>のりめん</sup>】

一般的には掘削または盛土によってつくられた人工的傾斜面のこと。

## 委員長

提言書では、緑と書いて括弧して雑木林等という表現する。はっきりいえば、東の方が都市開発が進んでいて、やがて西の方も東のようになっていく。そうなると余計に延焼防止などが重要になっていく。住んでない家屋が燃え種<sup>もくさ</sup>になる。防犯もそうだが防災の時に非常に問題になる。被災にあった時に、例えば7日間、市はこう機能するが、市民も一緒になって機能しなければならない。そういう時に市民が色んなことをやりたい時に選択肢は多い方がよい。だから選択肢を増やしておくことである。それは東も西も関係ないが、東には小金井公園などがあり多くの樹木や雑木林もあるのでその存在は大きい。

## 委員

先ほどの堰を造るのは可能か。

## 事務局

現在、上宿図書館の前に保存樹林地がある。その南側の用水路には何か所か堰ができるようになっており、いつでも水が貯められるようになっている。

年1回5月に実施されている沼さらいの時には用水路を止水するが、この堰を利用して水を貯めて小魚を死なせないようにしている。

## 委員長

差蓋<sup>さがい</sup>を保管する所がちゃんとあって、それが、震災がおきた時に住民組織でがすぐ置けるような仕組み、重さ等を考えて作っておけばすぐ機能すると思う。

## 事務局

その他の利用としては、用水路が分岐している部分で、どうしても勾配のきつい方に流れていくので、水量の調整のために蓋柵をし、丁度よい水の流れにするのに利用している。

## 委員

水の量が多いと玉石が自然に流れ、水が深くなってそこに魚がたまる。そしてまた自然に流れていく。堰を作るのではなくて、玉石を10mくらい置いてやると自然に流れていく。

## 委員長

差蓋<sup>さがい</sup>でなくてそういうものでもよい。差蓋<sup>さがい</sup>の方がやっていることがわかる。住民に伝え、何かがおきた時には自治会に管理してもらおうと自覚ができてくる。

## 委員

私の住んでいる所には自治会はないが、地域には共通の問題が発生した時には自然に古くから住んでいる方がリーダーのようになって対処をしたことはある。大災害が起きた時に共助は大切だが、組織率は下がっているのが実態である。

## 事務局

そうである。昔からある隣組などの組織はあったが、経済成長とともに急激に増えて、皆でうまくやっっていこうというのが中々できなかったこともあったと思う。何か災害が起きると皆さん自営組織の力の大きさを再認識する。小平市でも自治会ではなくても、隣同士で自主防災組織を立ち上げた際には補助制度がある。アドバイス、金銭面の活用をしてほしいと言っているので、ぜひ防災安全課にご相談いただきたい。防災に限らず地域コミュニティー、活性化というのは町づくりの中でも重要なキーワードである。

## 委員長

組織論みたいなものは大切であるが、緑化推進委員会としては少し違うかなと思う。

次回は、ここまで話された内容を土台にして整理したものを提出するので皆さんで修正していただき完成させていきたいと考えている。

以上